

人生において夢を持つということは、生  
きる力を形に表す一つの方法だと思ふ。また、  
生きた心の量が増えなければ、夢を育んでい  
くこともできないだろう。夢とは、安らぎや  
温かさから生まれる。心地よいと感じる小事  
ばかりを集め、膨らませていく日々であり、  
長い年月を費やして核として形を作り上げた  
いくものではないかと、私は思ふ。という。

私の幼いころからの夢は、才に叶えられ  
一つの形にすぎることだった。けれど、叶  
えられず、次の夢は、無残にも崩れ去ってし  
まい。その時点から、私は夢を見ることも、  
積極的に生きたというつもりをやめました。た  
だ、叶えられぬ夢を頼りに、進む者しんごも、

次の力が湧いてくる。けれど、無気力・無関心・無夢の中であつた。人は念へることや眠ることを必要とする。人として生きようとする基本的な欲求が、少しずつ満たされ、嬉しうや楽しうなことから受ける夢のかけらを増やしたこと、私は生きる力を取り戻せたと思つている。そして、生きることに向き合い、将来を見据える中で、ほんやりとてはあつたけれど、また次の夢の輪郭を心に描くことができたと思つている。

今私は、人生三つ目の夢を追いかけ始めた。自然や人の持つ力の魅力に引かれ、夢のかけらを集めていく。元のかけらを膨らませ、夢の輪郭を確かなものにしていこう。この水からの私の夢であり、時間をかけてじ、くりと、生きる糧にできるくらい大きく強いのにしていこうと思つている。